

菩提樹

平成29年度 第7号 11月21日 発行

伝統を受け継ぐ

校長 秋野 信義

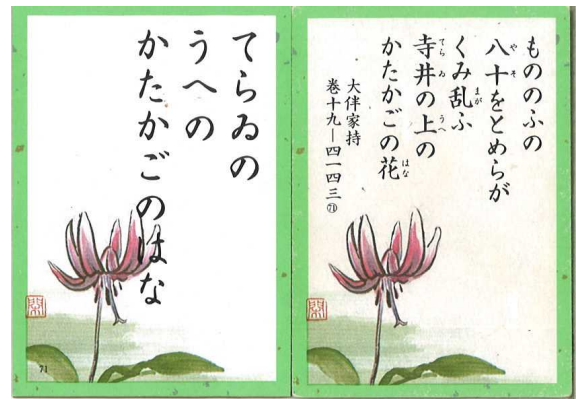
11月の声を聞くと毎朝、和室で4～6年生の「万葉かるた」練習が始まります。4人一組で競い、実力でランクが上がっていくので、時には学年が入り交じることもあります。このかるたは、万葉集を編纂した大伴家持が国守として赴任したおり、越中で詠まれた歌を中心に100首を選び、編まれたものです。昨年度の「第38回越中万葉かるた大会」には662人が参加し、ギネス世界記録「最多人数で同時に遊ぶカルタ」に認定され話題になりました。

さて、この万葉かるたが、本校に根付いて20年以上になります。当初は高学年の希望者のみが行っていましたが、徐々に参加者も増え、近年は3年生も参加するなど、本校の伝統になっており、練習を通して集中力、礼儀などを学んでいます。百首を全て覚え、相手より早く取れるようになるまでが大変ですが、子供たちの真剣に取り組む態度は学習や生活面によい影響をもたらしています。大人になった時、小学校時代のなつかしい思い出として語り合ってほしいと願います。

次に、俳句作りを紹介します。本校は、昭和60年度から句作を通して身の回りの自然や事象を優しい心と温かい眼でとらえる力を培い、言葉を大切に、何事にも感動できる子供の育成を目指してきました。日頃より家庭のご理解とご支援をいただき、子供たちは低学年の頃から俳句作りを続けています。

五・七・五の17文字に盛り込む「発見」はそれぞれですが、私たちの心に響く作品も次々と生まれています。大人が見過ぎがちなことも、子供たちの豊かな感性に触れると、きらきらした「発見」となります。この感性を何歳になってもぜひ見習いたいと思います。今後も、外部から講師をお招きし、ご指導いただく機会を設けるなど、子供たちの感性を磨く俳句作りを支援していきたいと思います。

このような取組は、すぐに効果が現れるとは限りません。毎年のひとつひとつの積み重ねが年月とともに「伝統」になっていくのだと感じています。東五位っ子の頑張りをお温かく見守ってくださるようお願いいたします。



左：取り札 右：読み札
※ かたかごは高岡市の花。名所は市HPで確認できます。

高岡の歴史文化に親しむ日作品集

俳句の部

「最優秀賞」

からくりの

から子がくるり春の山車

五年 琉聖

「佳作」

人ごみの

向こうに小さく御車山

六年 夏希

※今年の5月1日は「高岡の歴史文化に親しむ日」として児童休業日でした。

「参加する」を感動に

教諭

10月25日、5年生は福岡小学校で行われた区域の連合音楽会で、夏休み前から練習してきた成果を披露し、他校の演奏にも感心しながら全力を出して演奏し、歌いきりました。

自分が合唱と出会ったのは、小学生の時。母校の合唱クラブの歌声がとてすばらしかったことを今でも覚えています。合唱クラブは、体育館に全校が集まる機会にたびたび歌声を披露していました。曲は「夕焼けに拍手」というハーモニーの美しい曲でした。その曲は恒例のNHK全国合唱音楽コンクールの課題曲だったことは後で知りました。県予選に向けて人前で歌うトライだったのだと思います。当時は「すごいなあ」と聴いているだけで歌うことは、思いもしませんでした。

時は流れ、平成11年。砺波市のアマチュア合唱団とリトアニア国立オーケストラによる第九の演奏会が開かれると聞き、何気なく応募しました。第九に出てみたいという気持ちは以前からありましたが、なかなかきっかけがなく過ぎていました。練習会は、規定回数以上休むと除名されるという厳しいきまりで、当初大勢の人が練習に来ていましたが、回を重ねるに従い、減っていきました。参加者には懐かしい自分の音楽の先生もいらっしゃいました。練習会はピアノですが、当日は本物のオーケストラに合わせて歌います。

いよいよ本番、指揮者のタクトがすっと上がり、弦の音が「ブン」と響いた瞬間、背筋に電撃のようなぞくぞくとした感動を感じたことをよく覚えています。観客として聴くとステージで演じる立場では、全く感覚が違うということを体感した瞬間でした。豊かな音に包まれながら至福の時を味わいました。

子供たちもステージで胸をはって演じたことで何人もが背中「ぞくぞく」を体感してくれたと思います。子供たちにとって忘れられない体験となり次の目標へのステップにできればいいと思います。



プチ学校ニュース

地下道を大切に

学校前の地下道は子供達を守ってくれる大切な施設。掲示ケースや児童通行中に自動音楽が鳴る機能を備えるなどすばらしい施設です。学校でもこの環境を守ろうとがんばっています。4年生が定期的に「ボランティア清掃」を行うほか、各学年からも防犯用語の掲示や図工作品の紹介など環境づくりに努めています。入口が北西向きの学校側は風が吹くごとに吹き込むグラウンドの砂や晩秋に銀杏やモミジの落ち葉と格闘する場面もあります。それでも、この出口に朝、登校班がトントンと昇ってくるとパトロール隊の皆さんとバトンタッチ。先生や友達が「おはよう」と迎えてくれます。ほっとする場所でもあるのです。東五位の地下道を「ほっとゾーン」にこれからもがんばります。



「言葉の力」心を豊かに

よく日本は「言霊の幸う国」(ことだまのさきわうくに)だと言われます。心を込めて繰り返し唱えた思いが言葉のもつ不思議な力によって実現するとの言い伝えです。本校でも俳句作りや万葉かるた等の活動を通してひとつひとつの言葉を大切にすることで、少しずつ子供たちに変化が見られるようになってきました。また、地域の皆様のご支援で全員が防犯や人権の標語を考え、表彰・掲示していただく活動もよい効果を生んでいると感じています。

『今』を子供の目と豊かな感性でとらえる」「言葉のリズムを感じる」ことなどに取り組んだことで今年は、詩や作文、童話大会などに良い作品が生まれています。その一端をご紹介します。

高岡の歴史文化に親しむ日 俳句部門 最優秀賞
県ジュニア俳句大会 現代俳句協会会長賞 北日本新聞社賞
一茶祭り俳句コンクール 秀逸
県子供フェスティバル 優秀賞 高岡山町ポエム賞 大賞

これからも「言葉を大切に」を合い言葉に活動を進めていきたいと思ひます。



